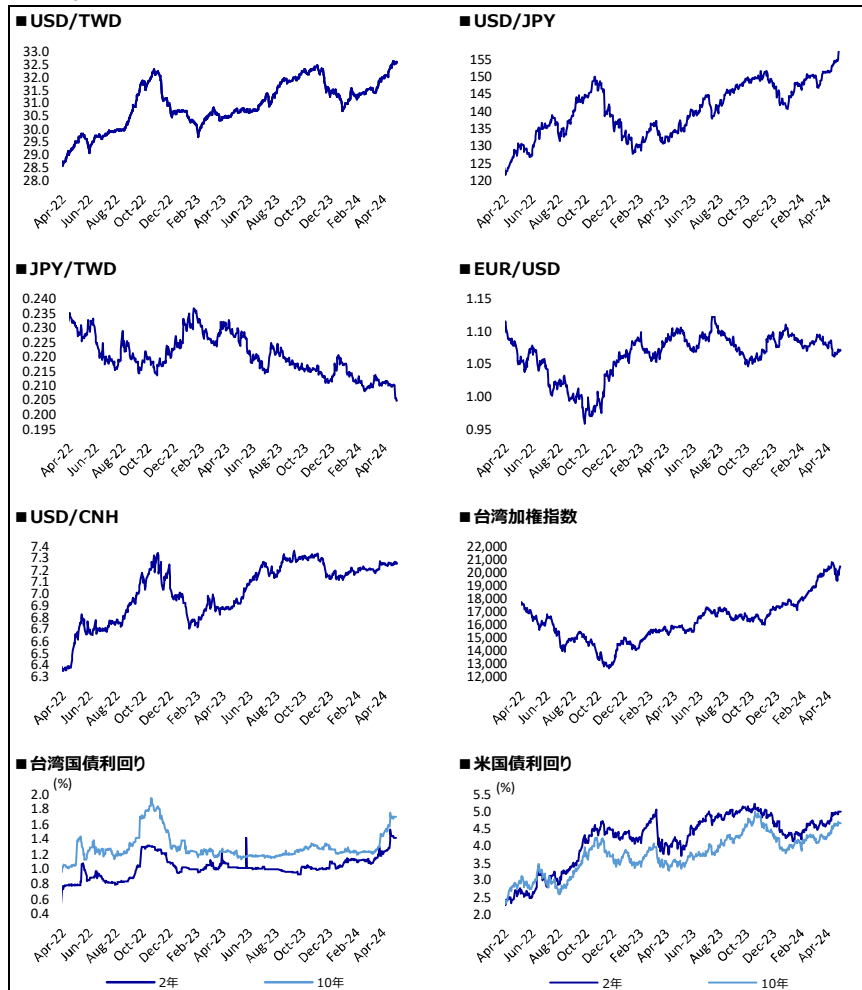


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/22は32.510でオープン後、米金利の高止まりと中東情勢の悪化を受けて台湾株の下落が進む中、外国人投資家による台湾株売りが見られたことで台湾ドル売りが進み、32.65近辺まで上昇。4/23は、一時ドル買い圧力が強まり32.675まで上昇したが、その後米金利の上昇一服と、輸出業者による月末のドル売りフローを受けて、32.60近辺まで下落。4/24は、米国株も堅調に推移していた中で、台湾株も連れ高となり、外国人投資家による台湾株買いが見られる展開に。一時32.484まで下落した。4/25は、ドル円が心理的な節目である155円を上げていたことを背景に、アジア通貨が連れ安となり、32.60近辺まで上昇し揉み合いの推移。4/26は外国人投資家による台湾株買いが見られ32.52近辺まで下落したが、日銀後に円安が進んでいたことを背景に台湾ドルも連れ安となり、32.58近辺まで上昇する展開に。最終的には前週比0.1%ドル高台湾ドル安の32.560で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は142.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初4/22は154.66でオープン後、米金利の高止まりを受けてドル買い圧力が強まるも、155円の心理的な節目を前に為替介入への警戒感が高まり、154円台後半で揉み合いの推移。4/23も、鈴木財務相より為替介入について「環境は整った」との見解が示されたものの、材料視されず154円台後半で揉み合いの推移。4/24は、米3月耐久財受注が市場予想を上回る堅調な結果となったことを受けて、155円の節目を上抜けて上昇した。4/25は、米第1四半期コアPCEが市場予想を上回る結果となったことを受けて、米利下げ織り込みが後退しドル買いが優勢な展開となり、155円台半ばまで上昇。4/26は、注目された日銀金融政策決定会合において政策金利が据え置きとなった他、植田総裁の記者会見において今後の利上げについて強い示唆が得られなかったことで円売りが加速し、157円目前まで上昇。総裁記者会見終了後、為替介入の思惑も交錯する中、材料なく急速にドルが売られ155円を割れこむ神経質な展開となったが、海外時間に発表された米3月PCEが堅調な結果となっていたことを受け、一時158.44まで上昇。1990年5月来の高値を更新する展開となった。最終的には前週比2.4%ドル高円安の158.33で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.450-32.750
今週は揉み合いの推移を見込む。米経済が堅調さを維持している中、米利下げ期待は剥落しやすい一方、台湾ドルも堅調な台湾株式市場や、輸出の回復に支えられることが期待され、売り買い交錯となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：158.00-162.00
今週は上昇を見込む。注目された日銀金融政策決定会合で今後の利上げ見通しに明確な示唆が得られなかった他、為替介入への思惑も薄れつつある状況下、円売り圧力が強まりやすいであろう。

今週の予定

4/29 (MON)	
4/30 (TUE)	日3月失業率、台湾第1四半期GDP、米4月カンファレンスボード消費者信頼感指数
5/1 (WED)	米4月ISM製造業景況感指数、FOMC
5/2 (THU)	米3月貿易収支
5/3 (FRI)	米4月雇用統計、米4月ISMサービス業景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。